

しい思いもあり、共学になって良かったと思いましたね。

男女共学へ

司会…学制改革で男女共学になりました。男子の側から見ると共学はどんな印象でしたか。

山下…昭和24年の4月に朝日高校の開校式がお城の中庭の玄関前であり、そのとき一高と二女高が対面式をしてそこから男女共学が始まるんですが、校舎は内山下と中山下に分かれて男女別々に勉強しました。25年4月からは内山下に集まりました。そのころ男生徒で女生徒を連れてきているものが一組おりました。だいたい皆別々に登校するんですが。

司会…それはカッパルで登校してたつてことですか？

山下…そう、みんながはやしたてたんですが、男の方はふんつという顔をし、女の方は下を向いていて、そんなことを覚えています。名前は言えませんが、また、そのころクラスによって男子、女子の人数が違う。私のクラスは46人中女子23人でしたが、2、3人しか女子のいないクラスがあつて、そのクラスの男子が来るんです。それで厚かましく一番後ろに座って授業を受けたりしておりました。

梶谷…私は高校2年から共学、3年からは進学組とそうでない組に分かれ、女生徒は進学しない人も多かったので事実上共学でなくなつた。ですから2年の時の思い出です。私は2年D組だったので、なごやかな雰囲気でした。舟木一夫さんの歌に「ぼくらフォークダンスの手を取れば、甘く匂う

よ黒髪が…」というのがありますが、そういう感じでした。ひじょうに甘く切ない思い出です。

司会…それでは女性の側からはどうでしたか？

藤原…小学校2年までは男女いっしょでした。それが高校3年からまた共学となつた。男子は休憩時間に英字新聞を読んでいますし、私たちは英語と理科はできてなかつたので、そのレベルの違いに不安と緊張がいっぱいでした。それがだんだん慣れてくると、男子が「わからんところがあつたら教えてあげる」とこつそり教えてくれることがありました。女子ばかりのときはかなりできていたと思つても共学になると成績表の評価が1から5までの評価で最低のところ、これで卒業できるかと心配になつたりしました。

市川…私は2年F組になつたのですが、二女は学校では上履きで、下履きとの区別がはつきりしていましたが、一中は一日中土足でびつくりしました。それと4時間目が終わるとお弁当の時間ですが、お弁当をその時間に食べるのは女子の列だけ、男子はそれまでにいつの間にか食べ終わつていて全くお昼をいっしょにした経験がありません。演劇部では勉強より何より「お前らいっしょになつたんだから、一中数え歌ぐらい覚えておけ」と言われて、セリフの打ち合わせの合間に一中数え歌を覚えさせられ今でも鮮明です。

朝日高のスタートと部活

司会…それでは昭和28卒の方に昭和25年に新制高校第1回入試で入



学されたところのことをお伺いします。毎年校舎を移られたそうですが、

佐々木…1年のときは今の中央中学校のある旧旭中学のところでした。運動場は旭中学と共同でした。入学したとたんこれはものすごく

いところだなと思つたことがあつた。僕らの入つたクラスに上から落ちてきた(落第した)人がいて、

そんな経験はなかつたので、これはうかうかできないぞ、という気がしました。ある日、英語の時間に先生が出張で高林先生が代わりに

に來られた。その校舎(1年)の先生でなくお城の校舎の先生なのになぜか來られて、「お前ら勉強し

とらんなあ。この教科書はお前らより1年下の学年でするところぞ」と

と言われ、英語の教科書を見ると日本語が一つもなく、全部英語で「アリババと40人の盗賊」だとか

が載つている。辞書もまだ十分ないころで英語には困りました。

司会…部活はいかがでしたか。佐々木…部活はありがたかつた

すね。お城の校舎に2年3年がいたので、そちらへ練習に行けた。サッカー部では3年生の先輩が卒業の時、一年生に皮のシューズをくれた。そのころシューズがなく

て、破れて足の先がのぞくようなシューズでももらいました。それと、皮のボールを練習の前までに縫つておかないといけない。それが1年の仕事。近くの靴屋さんに皮をどうやって縫うか教えてもら

つてうまく縫えるようになった。これは後になつても役立ちました。

片山…部活動は、演劇部、文学部、図書部に入つていた。どれもその後

に役に立ちました。演劇部は中学の時、市内の学校の全部の演劇

を観てまわり、一中と山陽の「夏の日の恋」だったかを観て、これは絶対朝日を希望しようと思

いました。部活の経験は一生を助けてくれたと思つています。そのころ校舎が離れていて、楽しみだったのは相生橋で、当時は朝日も操山も

ざーっとそこを歩いて行き交う雑踏というか学生の波のよう。そこで女子の先輩にはあいさつする

けれど、男子の先輩には恥ずかしい、いい、それがささやかな喜びでした。校舎は離れていたが先輩達

にとても助けられた。

朝日高の伝統、校風

司会…それでは最後に、一中・二女から朝日になって以降もつらなる

伝統、校風について、一言ずつお願いします。

山下…人を頼りにしない、自分に誇りを持つ、というのが一中の伝統だと思つています。

藤原…二女のころは、上品明朗、良妻賢母という教育方針であつたと聞いています。女子ばかりの学生生活、男女共学になってからの学生生活を体験しまして、ほんとうにいい経験と思ひ出が出来たと考えています。

市川…私は、二女の精神を持ち続けておられると思つておりました。三つ子の魂云々というのとおりで、他の評価はどうあれ、自分自身では上品明朗、良妻賢母だと思つてお

ります。

梶谷…最近週刊誌などで優秀な高校といふことで朝日高校が取り上げられていますが、先輩として大

変頼もしく思つております。

佐々木…責任を取るんだつたら何をしてもいいよ、という感じでした。勉強しないならしくなくてもいい、その結果がどうあれ自分が責任を取るんですよ。というような指導を受けてきた気がする。責任を取れ、ということが身に染みて

います。

片山…みなさんおっしゃつて

ことですが、一中の良さ、自主自律と、二女の良さ、上品明朗がきれいにマッチして、一中だけの野暮つただけではなく、二女のやさしさでくるまれて、より一中が

高められ、それが朝日になってつと波打つていると思つています。

司会…ありがとうございます。最後に今日のパネリストの皆さんに盛大な拍手をお願いいたします。

山下晴三郎さんは、今年9月10日ご逝去されました。ご冥福をお祈りします。